J. ASEV Jpn., Vol. 30, No. 1, 1 (2019)

American Society for
Enology & Viticulture
JAPAN Chapter

【巻 頭 随 想】

日本ブドウ・ワイン学会甲府大会に寄せて

久光　哲司

サントネージュワイン株式会社　代表取締役社長

On the Occasion of ASEV JAPAN 2019 Annual Meeting in KOFU

Tetsuji HISAMITSU

Sainte Neige Wine Co., Ltd.

この度，日本ブドウ・ワイン学会2019年度大会が山梨大学での開催と決まり，私が大会実行委員長をお引受けすることになり，誠に光栄に存じます．日本国内における酒類の消費量は，人口減少，少子高齢化，若者の酒離れなどの影響で縮小傾向にあります．国内のワイン市場はこれまで堅調な成長を続けておりましたが，ここ数年は踊り場を迎えつつあるのが現状です．しかしながら，国産ブドウ100％原料による日本ワインは続伸しており，日本ワイナリー協会の統計資料によると，平成28年の日本ワインの課税移出数量は平成19年に対して148％と大幅に伸長しています．また国税庁課税部酒税課の資料によると，平成30年3月31日時点で，全国に418の果実酒製造場があり，特に北海道や長野で新規ワイナリーが急増しております．さらに今後は2019年のラグビーワールドカップ，2020年の東京オリンピック・パラリンピック，2025年の大阪万博などの国際的なイベントが多く計画されており，そのような機会に海外の消費者に日本ワインの品質の高さをアピールすることは，日本ワイン産業の更なる発展にとって非常に重要と考えます．

このような状況の中，ワイン産業を取り巻く最近のトピックスとしては，「果実酒等の製法品質表示基準」が施行され，国産ブドウを100％使用した日本ワインと輸入原料を使用した国内製造ワインの区別が明確になるなど，消費者がワインを選ぶ基準としてより分かりやすい表示方法に変わりました．また，地理的表示に果実酒として「北海道」が追加され，日本ワインの中でも産地形成が進みつつあります．一方で課題としては，農業の担い手不足に伴う原料ブドウの安定供給や新規ブドウ畑の急速な拡大に伴う苗木不足が挙げられます．また，2019年2月に日・EU EPAが締結され，EU産ワインの店頭価格は低下傾向にあります．日本ワインが価格面で輸入ワインに対抗することは難しいですが，品質面では十分に対抗できると信じております．

日本ワインの品質は年々向上しており，最近では海外のワインコンクールにおいて日本ワインが受賞する例も増えてきました．品質向上にはブドウ栽培やワイン醸造の技術開発が不可欠で，日本ブドウ・ワイン学会の果たす役割は今後ますます大きくなっていくと考えます．また，今大会にはアメリカ親学会からの招待講演もあり，海外のワイン技術者と交流を深めることができるのも本学会の大きな意義と考えます．参加される皆様にとって有意義な大会になるよう微力ながら尽力いたす所存ですので，活発な意見交換等，皆様のご協力をお願い申し上げます．

最後に，今大会の会場をご提供いただきました山梨大学，並びに今大会の開催にご尽力いただきました関係者の皆様に心からの御礼を申し上げます．